

栽培ハウスの温度むら解消

来月から全農と佐賀で実証

トヨタ自動車子会社で知的財産事業や計測シミュレーション事業を手掛けるトヨタテクニカルディベロップメント（TTDC、本社豊田市、香川佳之社長）は21日、全国農業協同組合連合会（JA全農、東京都）と共同で2月から、農業用栽培ハウス内の温度分布を可視化して温度差（温度むら）解消と暖房効率の改善などにつなげる「夜間温度むら解析サービス」の実証実験を佐賀県で開始すると発表した。効果を検証しながら全国展開を目指す。

解析サービス全国展開目指す

ハウス栽培では、燃料費の高騰などで冬場の暖房費

負担が年々経営の圧迫要因になっている。ハウス内は

暖房による温度均一化が設計されているものの、実際には温度むらが発生し、設定温度を高めるために過剰な燃料消費や二酸化炭素（CO₂）排出を招いているという。

実証実験では、専用の小型計測器である環境センシングシステム「エコリクワイア」をハウス1棟当たり9カ所、作物の成長点付近

に設置してハウス内の温度分布を可視化する。クラウドを活用した遠隔データ解析と改善提案で、これまで経験や勘が求められた暖房ダクトの効果的な配置調整を容易にする。

今回の実証実験とは別に愛知県内で行ってきた同サービスでは、現場での改善作業と組み合わせ、約6日間で温度むらを低減。燃料使用量やCO₂排出量の削減、生育環境の均一化につなげている。

TTDCは温度だけでなく、湿度、露点、気圧、CO₂濃度を多点計測する環境センシングシステムを手掛け、工場やオフィス、農業分野で不均一な環境状態（環境むら）の改善サポートでも実績を積んでいる。



実証実験では、専用の小型計測器・環境センシングシステム「エコリクワイア」を活用する

